白山ろくにおけるエコロジカルな創造的地域経営の可能性

所属・氏名　地域創造学類　市原あかね

要旨

・農林業は、そのあり方によっては、生物生息地や温暖化対策など、エコロジカルな公益性に貢献できる。
・エコロジカルな地球市民的価値を提唱し実際に公益性に貢献する地域のあり方と、そのような地域のマネジメントを、ここでは「創造的地域経営」と呼ぶ。
・社会と自然の相互作用をふまえ、生態学と工学、地域生活の視点を総合して地域マネジメントのパターンを検討する。
・エコロジカルな創造的地域経営が、大規模林業に向かない地域にこそ有効であることを検討する。

研究の背景・イントロ

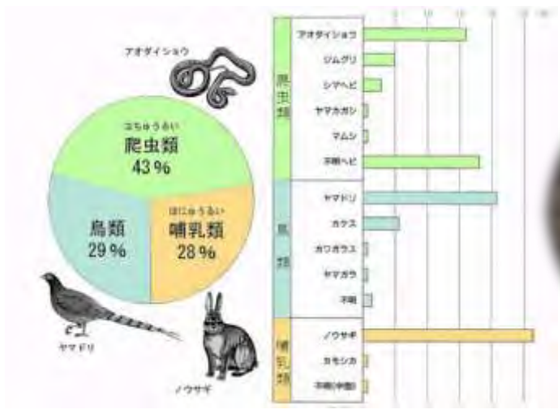
・再生可能エネルギー普及、特に木質バイオマス燃料利用の拡大は、地域に様々な積極的効果をもたらすと考えられている。
・しかし、どの地域もが、FIT（固定価格買取制度）を活用し収益を追求するような大規模木質バイオマス発電所建設が可能なわけではない。
・林業条件の整わない地域にとって効果的で社会的意義の高い導入パターンを明らかにする必要がある。

研究方法

・「社会生態システム」の視点を活用し、小規模林産の社会的価値形成の可能性を、特にエコロジカルな側面から検討する。
・周辺経済活動への波及効果の高い木質エネルギー利用技術パターンを調査する。
・木質燃料生産を含む小規模林産の事例を調査する。
・白山ろくを対象に、生態系と地域の生業の関連についてヒヤリング・文献調査を行う。
・小規模林産にかかわる生態系保全の先行事例を調査する。

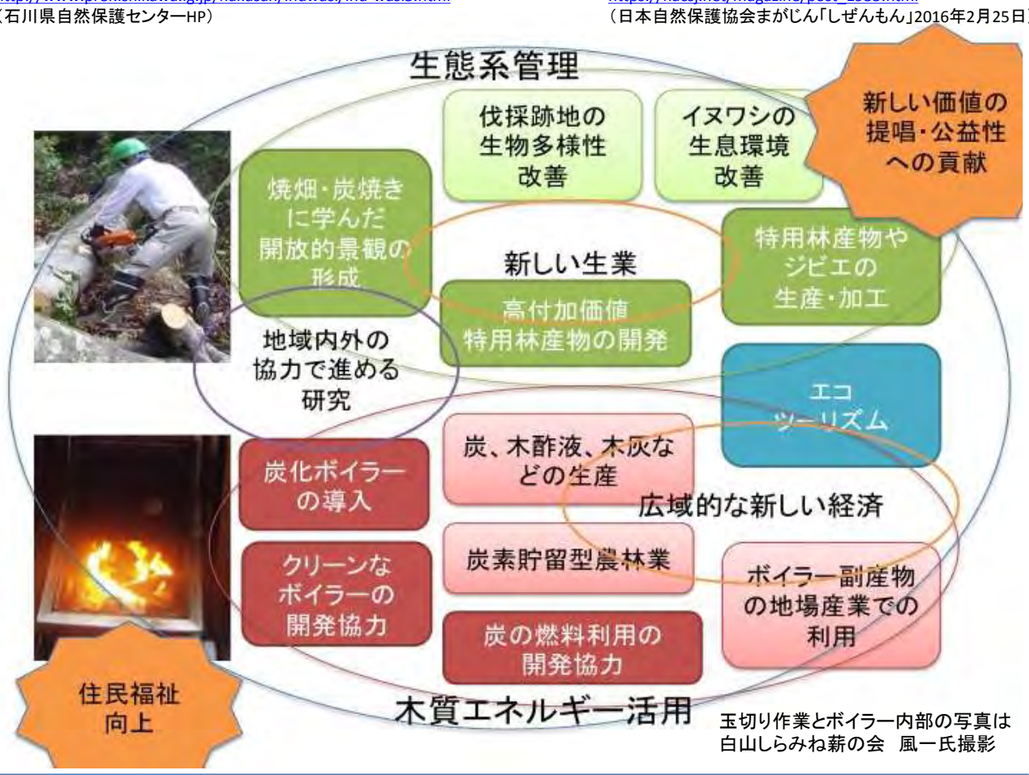
研究の結果

・木の駅等の小規模林産活動の中で、キノコ・ジビエ・薬草・エコツーリズムなどを組み込んだ多品種少量生産型林産活動が構想されている。
・木質バイオマスをエネルギー・資材の両方で利用する可能性があり、炭を活用する場合には炭素貯留型農林業として付加価値を形成することが可能である。
・県鳥であるイヌワシは絶滅が危惧されているが、かつての焼畑などの小面積皆伐が生み出す開放的景観が生息環境の一部をなしていた。したがって、イヌワシの個体数回復には小面積皆伐が効果的と考えられる。
・群馬県みなかみ町を中心とする国有林を対象に展開されている「赤谷プロジェクト」では、2015年、イヌワシの生息環境改善の実験事業として小面積皆伐を始めている。また、同様の取り組みが、南三陸町や鳥海山ろくでもはじまろうとしている。
・白山ろくは、白山エコパークに位置するため、エコロジカルな創造的地域経営に優位性を持っている。



http://www.pref.ishikawa.lg.jp/hakusan/inuwasi/inu-wasi5.html
（石川県自然保護センターHP）

https://nacsj.net/magazine/post_1935.html
（日本自然保護協会まがじん「しぜんもん」2016年2月25日）



玉切り作業とボイラー内部の写真は白山しらみね薪の会　風一氏撮影

まとめ

・小規模林産の小面積皆伐によって草地的空間を形成し、イヌワシのような絶滅危惧種の生息環境改善に寄与する可能性がある。
・また草地的空間は山菜やキノコ、ジビエをもたらし、地域生活・経済への積極的効果がある。
・炭化とエネルギー利用をシステム化することで、地域に炭素貯留型農林業を展開し、農林業・地域経営双方に温暖化対策上の付加価値を形成できる。
・これらを軸に、開放的空間の多面的利用やエコツーリズム、燃料生産に関わる技術革新等を総合的導入する創造的地域経営は、大規模林業に向かない地域にこそ可能である。

〒920-1162　石川県金沢市角間町金沢大学人間社会2号館4階467号室
金沢大学人間社会研究域附属地域政策研究センター TEL 076-264-5438　FAX 076-264-5444
E-mail　cures@kenroku.kanazawa-u.ac.jp　URL　http://cr.lib.kanazawa-u.ac.jp/center/